東日本大震災復興支援

被災地訪問報告

2011年3月11日14時46分、これまで経験したことがない大きな地震が東北、関東を襲いました。あれから11年経とうとしています。

震災の翌年、生活クラブ生協の呼びかけにより、私たちは「東日本大震災・復興支援ネットワーク（支援ネット神奈川）*」に参加し、活動をすすめてきました。その1つである「東日本大震災復興支援まつり」では多くのW.Coの協力によりたくさんのブースを出展して、カンパ金を届けてきました。そして被災地について学ぶとともに、被災地訪問も行ってきました。今回はその被災地訪問について報告します。

＊「東日本大震災・復興支援ネットワーク」幹事会団体…
生活クラブ生協神奈川・神奈川W.Co連合会・WE21ジャパン・いきいき福祉会・神奈川ネットワーク運動・地球の木・参加型システム研究所

今回、連合会全体の支援として被災地の生産品購入にも取り組みました。各W.Coに呼びかけた結果、43団体にご協力いただきました。品目数1,671点、金額は698,220円の売り上げになりました。また、畠農園のリンゴジュースは11団体、14ケースの申し込みがありました。いろいろ不備があり、ご迷惑もおかけしましたが、ご協力ありがとうございました。

被災地訪問のきっかけと目的

「復興支援まつり」は『被災地を忘れない、被災地とつながる』をテーマに続けてきましたが、震災から数年経ち、支援ネット神奈川では「神奈川の地で学習をしたり、まつりをしたりするだけでいいのか？被災地が必要としている支援が変わってきているのではないか？」という思いが強くなりました。そこで2018年から被災地の現状を知り今後の支援を考えるために、隔年で神奈川での学習会と交互に「被災地訪問」を行うことを決めました。

2020年に実施予定だった2回目の訪問は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止。今年は感染を拡大させないように、福島コース・宮城コースそれぞれ上限10名の参加制限、出発前に各自PCR検査をして臨みました。

行程 2021年12月3日（金）・4日（土）
宮城コース

参加者 井上 浩子専務理事

1日目

JR石巻駅

石巻は「サイボーグ009」で有名な石ノ森正太郎の故郷

女川駅

昼食 女川 魚市場食堂

きれいに建て替わった魚市場内の食堂で、めったに食べられないお刺身も出していただきました！

旧女川町立病院

津波は海抜14mの病院の1階天井付近まで到達しました。

女川駅周辺 自由行動

建て替えられた女川小・中学校

海抜30mで現在の避難場所になっています。

旧女川交番遺構

整備された新たな街並みの中に、旧女川交番だけが津波で倒された姿で残されていました。

見学 コミュニティスペース うみねこ

元保育士の八木純子さんは、お母さんたち、お父さんたち、若者、それぞれが自律（自立）して生活できるように、人を見て、考えて考えて、行動しています。

いちじく・とうがらし畑を見学しました。

ここまで津波は到達しました。

たった一つ津波に耐えた八木家の納屋。みんなの活動と交流の拠点にしよう！と改装

訪問 スーパーおんまえや

女川町民に長年愛されていましたが、津波で全壊。従業員も犠牲になりました。以前とほぼ同じ、海から近い場所で2020年3月営業再開。

訪問 共生地域創造財団 石巻事務所

ここでは被災者の自立支援をしています。仮設住宅からの転居やコロナ禍で居場所をなくした人のシェルター運用についてお話を伺いました。

→1日目終了

2日目

訪問 大川小学校

ハザードマップでは津波がこない想定の避難場所に指定されていました。しかし、すぐそばを流れる北上川と海からも水が押し寄せ、児童74名と教職員10名が犠牲になりました。

子どもたちの声が聞こえてきそうなモダンな校舎。小学校からは海は見えません。学校の裏には緩やかな山。地震から51分。なぜ津波の被害にあったのか。

見学 大川震災伝承館

日頃の準備と念のため逃げるという選択。それを大人ができるかどうか。教訓というにはあまりに大きな犠牲でした。

新しく建てた野菜加工工場

高橋社長は震災後、心に傷を負った未就労の若者が1,000人いることに衝撃を受け、野菜加工場を新設。当初社内からは異論がありましたが、若者たちが変わっていくのを目の当たりにして、社長の思いを理解し、協力するようになったそうです。

被災したときに駆けつけてくれた方々の思いを忘れないようにその時使ったスコップやはしごを保存して展示しています。

訪問 昼食 高橋徳治商店

生活クラブ生協組合員はいつもお世話になっている「おとうふ揚げ」の生産者。工場からの泥の撤去を含め、多くの生協が震災直後から再建に向けて支援しました。

工場見学もしました。

→ツアー全行程終了

被災地訪問を終えて

改めて日頃から備えておくこと。そして、W.Coの基本でもある自分で考えて自分で行動することの大切さを伝えなければと思いました。

現在の被災地の課題の多くは、日本のどこでも課題となっていることだと感じました。被災地の方々が自律（自立）して生きていけるように、支援や具体的な連携を続けていくとともに、お互いの知恵や実践を交換して、共に発展していきたいと思います。今後も1人でも多くの方に被災地を訪れてもらいたいです。

（専務理事　井上 浩子）